

平成 29年 5月 12日

報道機関 各位

## 第46回フローレンス・ナイチンゲール記章

受章者発表！ 日本からは、

### 名古屋第二赤十字病院の伊藤明子看護部長が受章

2年に一度、顕著な功績のあった看護師等に贈られる世界最高の記章であるフローレンス・ナイチンゲール記章の受章者が、ナイチンゲール女史の生誕の日である5月12日、赤十字国際委員会（ICRC）ナイチンゲール記章選考委員会（スイス・ジュネーブ）から発表されました。

今回は、世界 22 カ国 39 名が受章し、日本からは伊藤<sup>いとう</sup> 明子<sup>あきこ</sup>看護部長が受章しました。伊藤看護部長は、紛争地域を含む国内外での看護活動や災害救護活動の功績が認められました。

今回の受章により、受章者総数は 1,488 人なり、日本からの受章者は、108 名となりました。

授与式は年内に執り行われる予定で、日本赤十字社名誉総裁である皇后陛下御手ずから記章が授与されます。日程につきましては、詳細が決まりましたら改めてお知らせいたします。

#### 【問い合わせ先】

名古屋第二赤十字病院 総務課

052-832-1121（高木・渡邊）

## 【フローレンス・ナイチンゲール記章】

この記章は、紛争下において敵味方の区別なく負傷者を保護する役割を担う赤十字が、1907年および1912年の赤十字国際会議において、顕著な功績のある世界各国の看護師を顕彰し、授与することを決定したものです。ナイチンゲール女史の生誕100周年を記念して、1920（大正9）年に第1回の授与が行われました。それ以来、隔年でナイチンゲール女史の生誕の日にあたる5月12日に赤十字国際委員会（ICRC）から発表されています。

受章資格を有する者は、看護師や篤志看護補助者であって、平時または戦時において傷病者、障がい者または紛争や災害の犠牲者に対して偉大な勇気を持って献身的な活動をした者、公衆衛生や看護教育の分野で顕著な実績を残した者、創造的・先駆的貢献を果たした者です。

同記章は、<sup>とぎん</sup>鍍銀製アーモンド型メダルで、表面は燭（ともしび）を手にしたナイチンゲール女史の像と「1820～1910年フローレンス・ナイチンゲール女史記念」の文字があり、裏面には受章者名と、ラテン語で「博愛の功德を顕揚し、これを永遠に世界に伝える」と刻まれています。

今回は世界で39名が受章、日本からは伊藤 明子看護師1名が受章しました。伊藤さんは、紛争地域での看護活動や災害救護活動での功績が認められました。

これで受章者総数は1,488名になり、日本人の受章者総数は108名、世界最多となっています。



## 【受章者のプロフィール】

伊藤 明子 (いとう あきこ)

■ 現職：名古屋第二赤十字病院 看護部長

■ 主な功績：

紛争地域において、さまざまな国・地域から派遣される医師、看護師等のメンバーで構成される国際赤十字の医療チームを束ねる事業責任者として、数々の現場で指揮を執った経験を有する日本人唯一の看護師。

1988（昭和 63）年に国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）の要請を受け、ベトナム難民を収容したマレーシア国ビドン島に派遣されたのを皮切りに、ケニア、東ティモール、アフガニスタン、インドネシア、パキスタンなど各国で医療救援活動に従事。

特に、アフガニスタンやケニア等紛争地域での豊富な経験から、赤十字国際委員会（ICRC）の信頼も厚く、各国赤十字のメンバーで構成される医療チームの事業責任者として過去5回の任務遂行実績を有する。

所属施設のみならず、広く国際医療救援活動に携わる後進育成のための育成プログラムの構築、研修にも積極的に取り組んでいる。

また、豊富な国際活動の経験を生かし、東日本大震災、平成 28 年熊本地震災害など国内災害では、被災医療施設を支援するためのコーディネーターとして活動し、被災地域で昼夜を問わず負傷者を受け入れた病院を支える大役を果たした。

